

エネルギー政策に関する意見箱

1. 氏名	早野睦彦
2. 年齢	
3. 性別	
4. 連絡先	
5. 御意見及びその理由	<p>意見</p> <p>エネルギー供給に原子力は不可欠である。</p> <p>再生可能エネルギーの具体的実現性の根拠を示せずして、これを主力電源とするのは社会リスクそのものである。不確定なものに国家の将来をゆだねることはあってはならない。</p> <p>理由</p> <p>一次エネルギーは3種類しかない。即ち、化石燃料によるエネルギー（石油、石炭、天然ガス、シェールオイル、メタンハイドレード、オイルサンド、etc.）と再生可能エネルギー（水力、風力、地熱、バイオマス、太陽光、太陽熱、潮流、波力、etc.）そして原子力エネルギーである。化石燃料はいつか無くなる。</p> <p>エネルギー源には3要件がある。即ち、大量にあること、集中してあること、そしてエネルギー密度が高いことである。再生可能エネルギーを決して否定するものではないが、そのエネルギー密度の低さから工学的、即ち経済的に見合わず基幹エネルギーとすることは大変難しい。さらに太陽光発電、風力発電の再生可能エネルギーには間欠性が加わり、環境破壊や送電インフラの不足を伴って具体的実現性の根拠を示せないのであろう。</p> <p>このような状況で原子力を選択肢から外すことは国家の自殺行為である。確かに東電福島事故は大きな事故であった。この結果無い方がいいという世論が形成されてしまったが、逆に無くなったら危険にならないかということも考えてみる必要がある。</p> <p>実際の話として、9. 11のテロの後、飛行機を避けて自動車で移動する人が増え、この結果交通事故がかなり増えた。実際は飛行機は自動車よりもかなり安全な乗り物であるが人々はそうは思わなかった。リスク認知バイアスである。</p> <p>このまま進めば、原子力技術は途絶えその技術は失われ、取り返しのつかない道に入ってしまう。戦後のGHQによる航空機開発の禁止による市場への参入の遅れのように、将来、我が国は技術植民地として甘んじざるを得ない環境を作ってしまうかねない。</p> <p>工学とは失敗学であり経験学である。失敗を認めない社会に進歩はない。原子力にはリスクがある、しかし原子力を失った場合にもリスクがある。それを冷静に比較衡量する能力が社会に求められている。そしてそのリスクがどの程度のものである</p>

るかの認識を共有し、リスクミニマムを求めながらもリスクとともに生きてゆく覚悟を決めてこそ成熟した大人の社会というものであろう。いたずらに東電福島事故を引きずってはならない。

以上